



臨床研究支援センターでは、大規模治験ネットワークに登録し、日本医師会治験促進センターより企業治験の「予備調査」、「施設選定調査」を受け入れています。各診療科の先生方へお声がけし、調査への回答依頼をお願いする場合があります。ご協力よろしくお願い申し上げます。

4月より、本間副センター長・五十嵐研究企画係長が、臨床研究支援センターの所属となりました！お2人よりご挨拶申し上げます。

### 本間 大 副センター長 (国際医療支援センター 兼務)

私が携わってきた皮膚科領域では、近年、乾癬、アトピー性皮膚炎、皮膚悪性腫瘍などに対する新規薬剤の開発が進んでおり、私自身も、乾癬を中心に種々の国内および国際共同臨床試験に参加する機会を得ることができました。臨床試験(いわゆる治験)では、日常診療とは異なる付加的な業務が少々増えますが、新規薬剤の特性を学ぶことができる、外部資金の受け入れを通じ本学に貢献できるといったメリットがあります。一方で、有効性の高い治験薬の投与により皮膚症状が著しく改善した患者さんの表情の変化を拝見することで、皮膚科医が従来考えてきた治療の目標と、患者さんの求める治療ゴールの乖離を痛感することも少なくありません。臨床試験の最大のゴールは、実際の患者さんに、よりよい治療法を届けることですが、臨床試験の実施を通じ、私自身の臨床医としての考え方にも良い影響をいただけたのではないかと考えています。

前述のように、治験業務では種々の付加的な業務が生じますが、CRC(臨床研究コーディネーター)をはじめ臨床研究支援センターの方々、事務職員の皆様の多大なる協力のもと、無事に臨床試験を実施することができました。ご協力いただきました方には心より感謝申し上げます。これからは、臨床研究支援センターの一員として、臨床研究を実施される先生方にご協力できますよう努力したい所存でございます。微力ではございますが、どうぞよろしくお願いいたします。

### 五十嵐 恵 係長 (研究支援課 兼務)

4月1日付で研究支援課研究企画係長となりました五十嵐恵です。

主な担当は、治験申請の窓口業務や治験に係る記録の保管、IRBに関する事務と、診療科の先生が行う臨床研究支援の事務となりますが、未来をより豊かにするための研究に関わることができるととてもうれしく思っています。

診療科の先生がより良い環境で研究することができるよう支援するため、日々努力し、知識を深めていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

みなさまどうぞよろしくお願いいたします

### 平成31・令和1年度実施治験 (プロトコル数)

継続→平成31年4月より前から継続中のプロトコル数

新規→平成31年4月以降新規に開始したプロトコル数

診療科	皮膚科	眼科	小児科	女性医学科	第二内科	第三内科	血管外科	リハビリテーション科	泌尿器科	救急科	整形外科	呼吸器センター	精神科・神経科	脳神経外科
継続	7	3	1	3	2	13	3	1	3	1	1	1	—	—
新規	4	2	—	—	1	2	1	—	—	—	—	—	1	2

全科あわせて、105名の被験者さまにご協力いただきました！

### 知っておきたい治験/臨床研究用語 「SMO」

SMO (治験施設支援機関) とは？

Site Management Organizationの略称で、医療機関側の治験実施体制の整備、CRCによる治験業務支援、治験事務局支援など、治験業務を包括的又は部分的に支援する組織です。

SMOの業務形式は大きく2つに分類され、CRCや事務局支援担当者を医療機関に派遣する「派遣型SMO」と医療機関に不足する機能の補足業務を兼ねて包括的に支援する「委受託型SMO」があります。

これまで当院におけるSMOの導入実績はありませんでしたが、現在は派遣型SMOを導入し治験開始の準備を進めています。院内CRCとは別のSMO CRCが、外来・病棟にて被験者対応をすることも今後増えていきます。SMO導入により更なる院内の治験活性化を目指していけるよう、みなさまのご理解・ご協力を宜しくお願い致します。

治験のお話が来ても「面倒だから」「忙しいから」「今までやったことがないから」と断ったご経験はございませんか？ 当コーディネイト部門がサポートさせていただきます。一度、臨床研究支援センター (内線3487) までご相談ください。病院全体で治験を活性化しましょう！



ご意見・要望等は、臨床研究支援センターまでご連絡ください。  
(内線: 3487 / E-mail: crc-all@asahikawa-med.ac.jp)  
次号は6月に発行予定です。

